

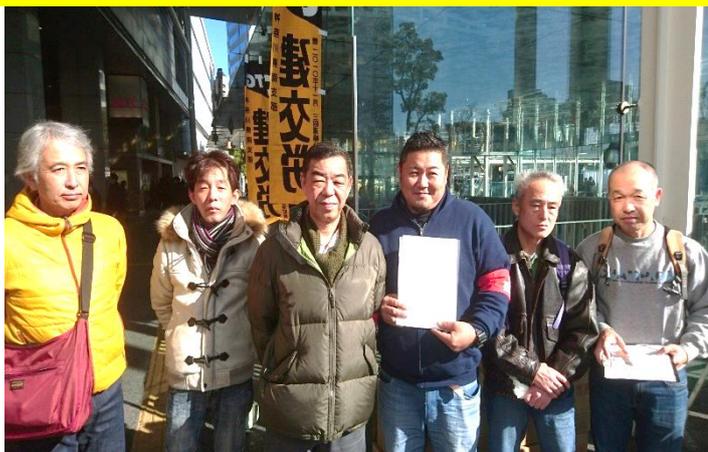


春闘勝利と強大な組織を実現する2018年！ 世界に誇る平和憲法を活かす闘いのスタート

新年の幕が開け、すでに仕事を始めた仲間も多くいます。

建交労の仲間も 2018 年春闘の勝利や強大な組織を実現するたたかいなどを開始しています。

今年は「戦争する国づくり」を許すのか、それとも「憲法を活かして平和で民主的な政治と経済を実現するのか」日本の針路をめぐり激しい攻防が展開されます。憲法 28 条に保障された労働組合



の存在意義をかけた正念場の年です。JR川崎駅前で行った宣伝・署名行動をおこなう支部執行委員

日本が世界に誇る平和憲法の破壊を公言する安倍首相は、国会における与党議席（改憲派）の多数を頼んで憲法改悪の動きを強め、武器の製造拡大など「死の商人」と化した財界・大企業と米国トランプ政権は安倍政権を全面的に後押ししています。

しかし、憲法 9 条を削除したり自衛隊の存在を憲法 9 条に加えて日本がアメリカと一緒に「海外で戦争する国になる」ことを支持する国民は、どの世論調査でも少数派であり「憲法 9 条を変える必要はない」という国民の声が常に多数を占めています。戦後 70 年以上にわたって他国と戦争を行わず、一人の戦争犠牲者も出さずにきた戦後日本の歴史は世界の人々が称賛する歴史です。歴代自民党政権と米政権が何度も直接戦争に加担させようとしてもできなかったのは憲法 9 条があったからです。

この輝かしい戦後の日本の歴史を、子々孫々へと繋げていくことは今を生きる私たち大人、そして憲法に守られた労働組合に求められる責任です。

神奈川県南支部の全組合員の力を合わせて、歴史的なたたかいに打って出しましょう。

神奈川県本部旗開きは1月7日の11時から 多くの分会の仲間の参加で闘争の開始を！

建交労神奈川県本部では、1月7日(日)に開催する「旗開き」(別紙案内)が、県本部に結集する全組織・全組合員による2018年のたたかいのスタートになります。

新年の旗開きは、一人でも多くのなかまが参加をして、新年の初顔合わせをするとともに団結と交流を深め、1年間のたたかいの奮闘を誓い合う大切なとりくみです。

神奈川県南支部執行委員会は、県南支部の全分会が過去最高の参加者を実現させて、県本部旗開きを成功させるために大きな役割を發揮するよう呼びかけます。

旗開きの会場でお逢いすることを楽しみにしています。

2018年旗開き

建交労神奈川県本部

建交労神奈川県本部は、以下のとおり「2018年旗開き」を開催します。

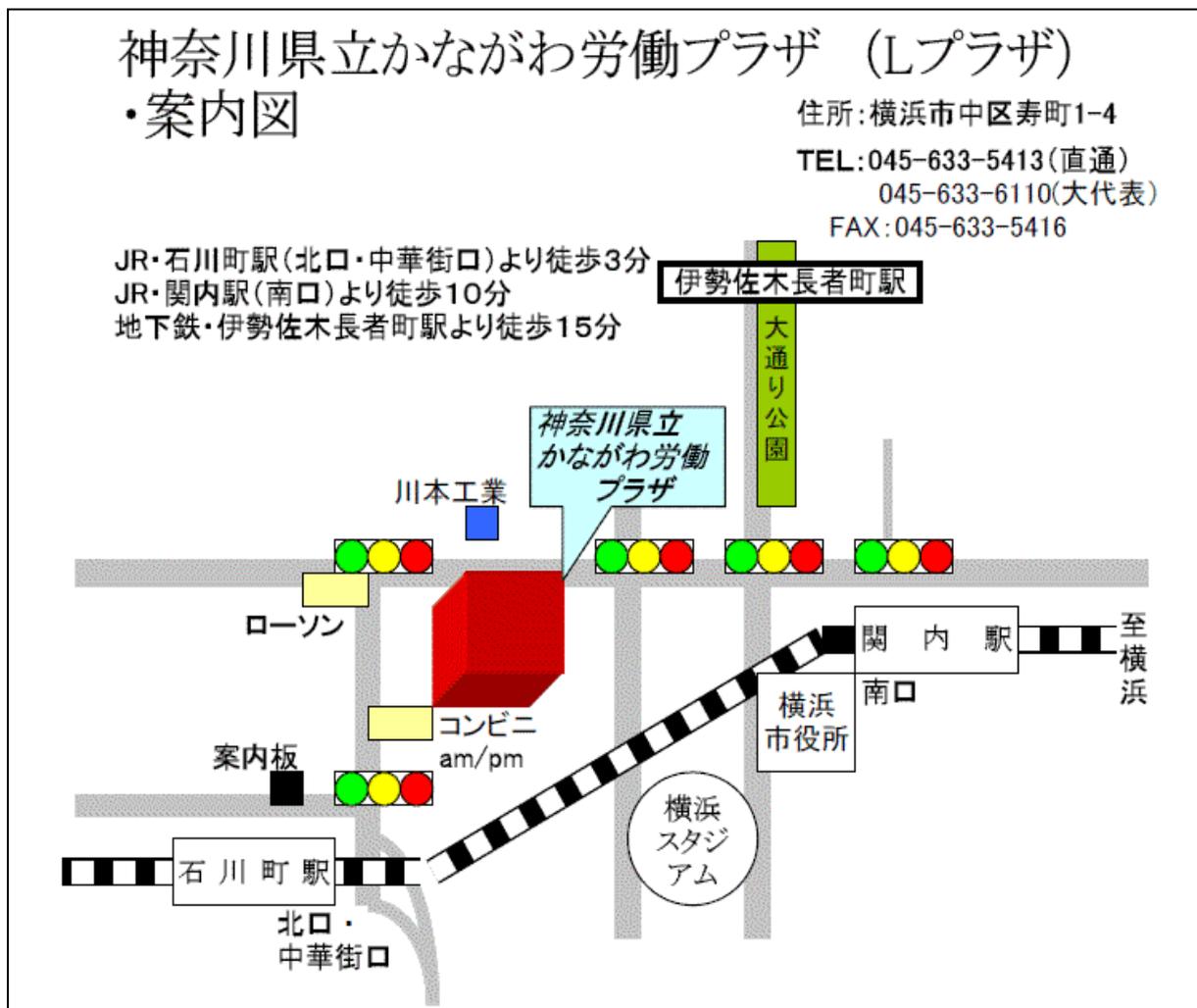
新しい年を迎えて全支部・全分会での要求実現、国民的課題での闘争強化、強大な組織建設など、たたかいへの決意を固め合う集いです。各分会からは、一人でも多くのなかまが参加するよう取り組みを強めましょう。

日 時：2018年1月7日(日) 午前 11:00～

場 所：かながわ労働プラザ9F レストラン「味彩」

(JR石川町駅下車徒歩5分)

会 費： 大人 2000円 (子供 無料)





被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

私は被爆者の訴えに賛同して署名します

名 前	住 所	募金

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】

原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4 ☎03-5842-6031

